

## 産科婦人科【Stage2】

### 1. 実習の基本方針（目的・到達目標）

産婦人科医療に興味とやる気を持った意識の高い学生に対し、Stage1で行ってきたクリニカルクラークシップ実習では不足していた部分を補う。

### 2. 実習の方法（内容・行動指針）

分娩、帝王切開術、生殖補助医療（人工授精、体外受精・胚移植など）、婦人科腫瘍手術、外来診療、病棟処置などのうち、それぞれの学生が希望する分野を優先して実習できるようにする。担当教員（河野康志、岡本真実子）と学生とであらかじめ打合せを行い、学生の希望を尊重し、学外関連病院とのマッチングを行う。学外関連病院は主として産科診療、生殖補助医療を行っている施設となる。このような施設は受診者（患者さまとその家族）の評判が大きく経営を左右してしまう。そのため産婦人科医療に興味とやる気を持った意識の高い学生しかお願いする事ができない。

### 3. 実習上の注意事項

- 1 患者は全員女性である。服装、態度及び言動には十分注意すること。
- 2 白衣のボタンは留める。サンダル、歩くと音の出るヒールなど、ジーンズ、白衣に柄・文字が透けるシャツは不可。内診室で笑わない、雑談しない。その他、不謹慎な態度を取らないこと。
- 3 肩につく長さの髪は束ねる。爪を切り、手指はとくに清潔にしておくこと。
- 4 イヤリング、ピアス、指輪、手にメモを取るなどの非衛生的行為は厳禁である。
- 5 実習過程で知り得た情報を、ソーシャルネットワークサービス等で不特定多数に向け発信しないこと。

### 4. 「医学生の臨床実習における医行為と水準」の例示

レベルⅠ：指導医の指導・監視の下で実施されるべき

視診・触診（内診・直腸診）、腔鏡診、産科的診察、分娩監視装置の装着、経腹的超音波検査、分娩立会い、手術助手（縫合）、包交

レベルⅡ：指導医の実施の介助・見学が推奨される

羊水穿刺、腹水穿刺、抗がん剤などの薬物投与、会陰切開・縫合術、分娩介助、患者・家族への病状説明

【スケジュール】（学外関連施設または大学病院での実習となる）

曜日	担当教員	実習内容（午前）	実習内容（午後）
月	学外施設の院長・部長／大学病院教官	外来・分娩・手術など	外来・分娩・手術など
火	学外施設の院長・部長／大学病院教官	外来・分娩・手術など	外来・分娩・手術など
水	学外施設の院長・部長／大学病院教官	外来・分娩・手術など	外来・分娩・手術など
木	学外施設の院長・部長／大学病院教官	外来・分娩・手術など	外来・分娩・手術など
金	学外施設の院長・部長／大学病院教官	外来・分娩・手術など	外来・分娩・手術など